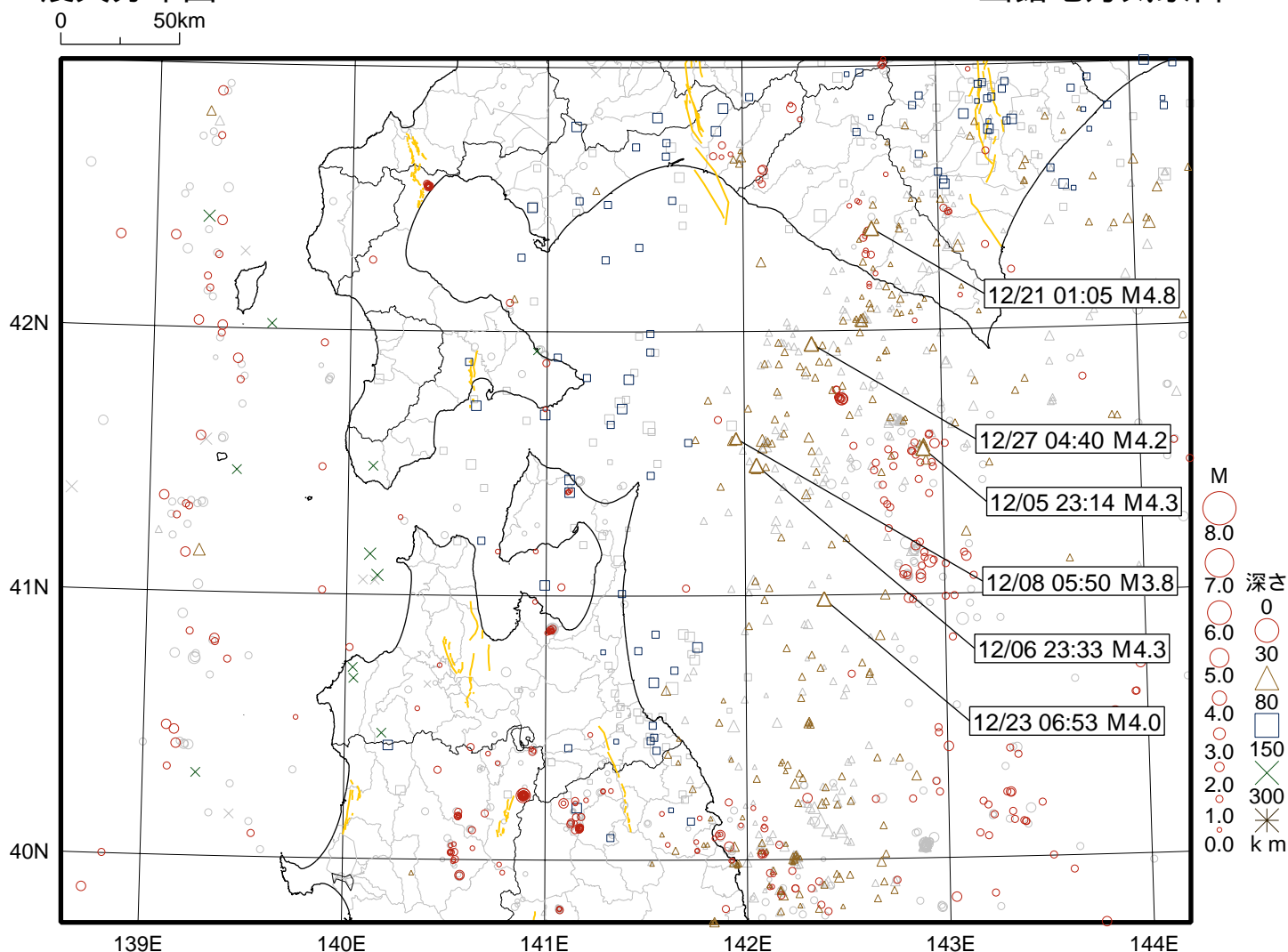


渡島・檜山地方の地震活動図

2021年12月1日～2021年12月31日

震央分布図

函館地方気象台



地震概況（2021年12月）

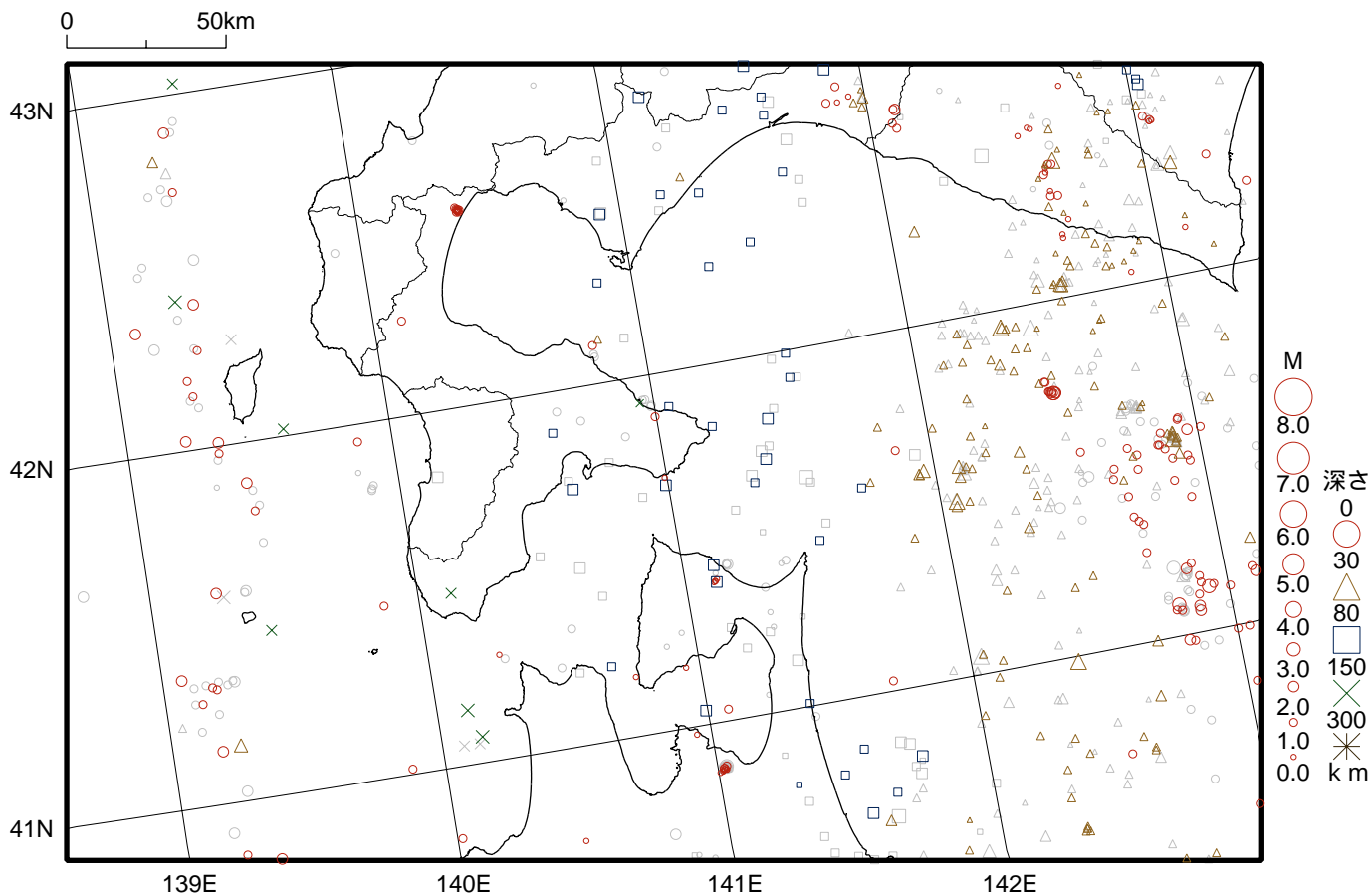
この期間、渡島・檜山地方の震度観測点で震度1以上を観測した地震は6回（11月は4回）でした（詳細は「渡島・檜山地方で震度1以上を観測した地震の表」参照）。

6日23時33分、青森県東方沖の地震(M4.3、深さ55km)により、函館市泊町で震度2を観測したほか、函館市新浜町、函館市日ノ浜町で震度1を観測しました。

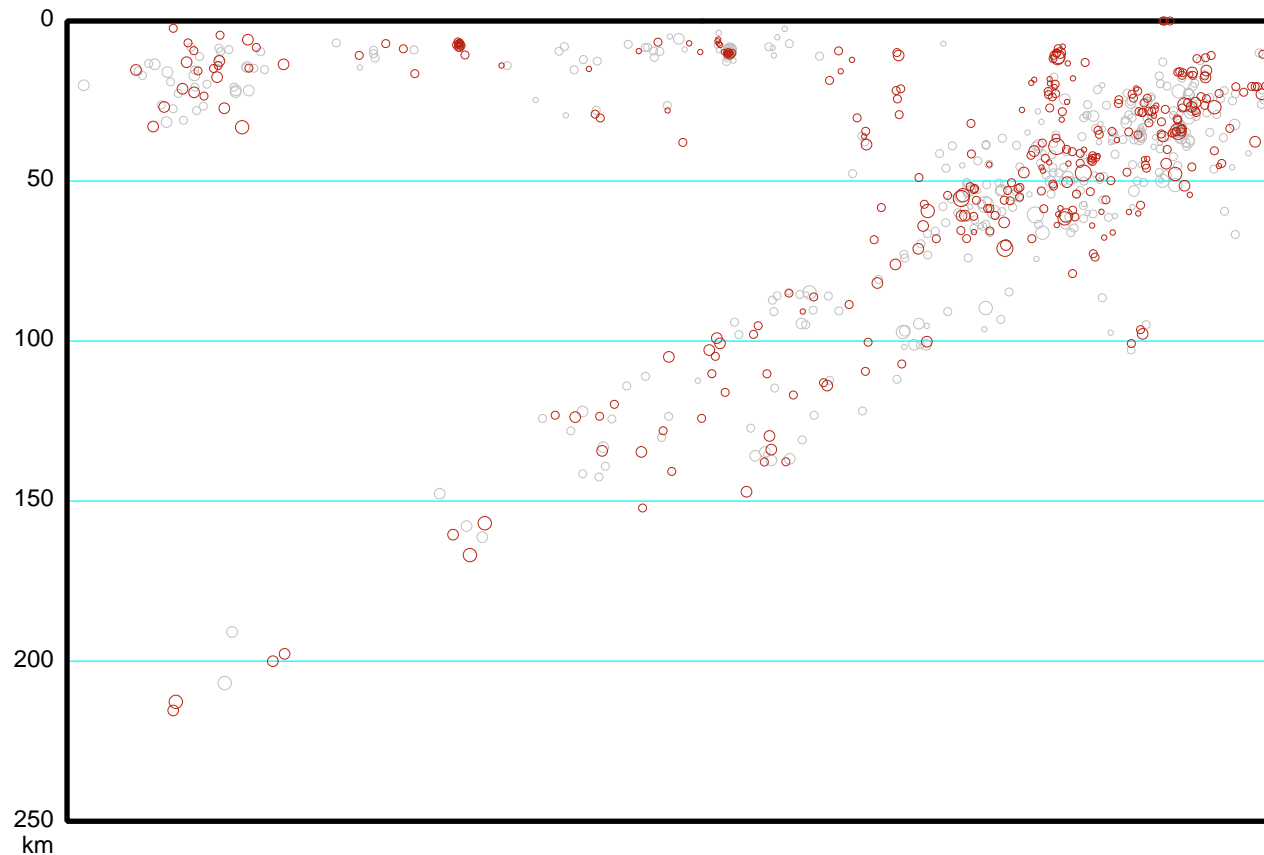
21日01時05分、日高地方中部の地震(M4.8、深さ39km)により、函館市泊町、函館市新浜町、函館市川汲町で震度2を観測したほか、渡島地方で震度1を観測しました。

2021年12月1日 ~ 2021年12月31日

震央分布図



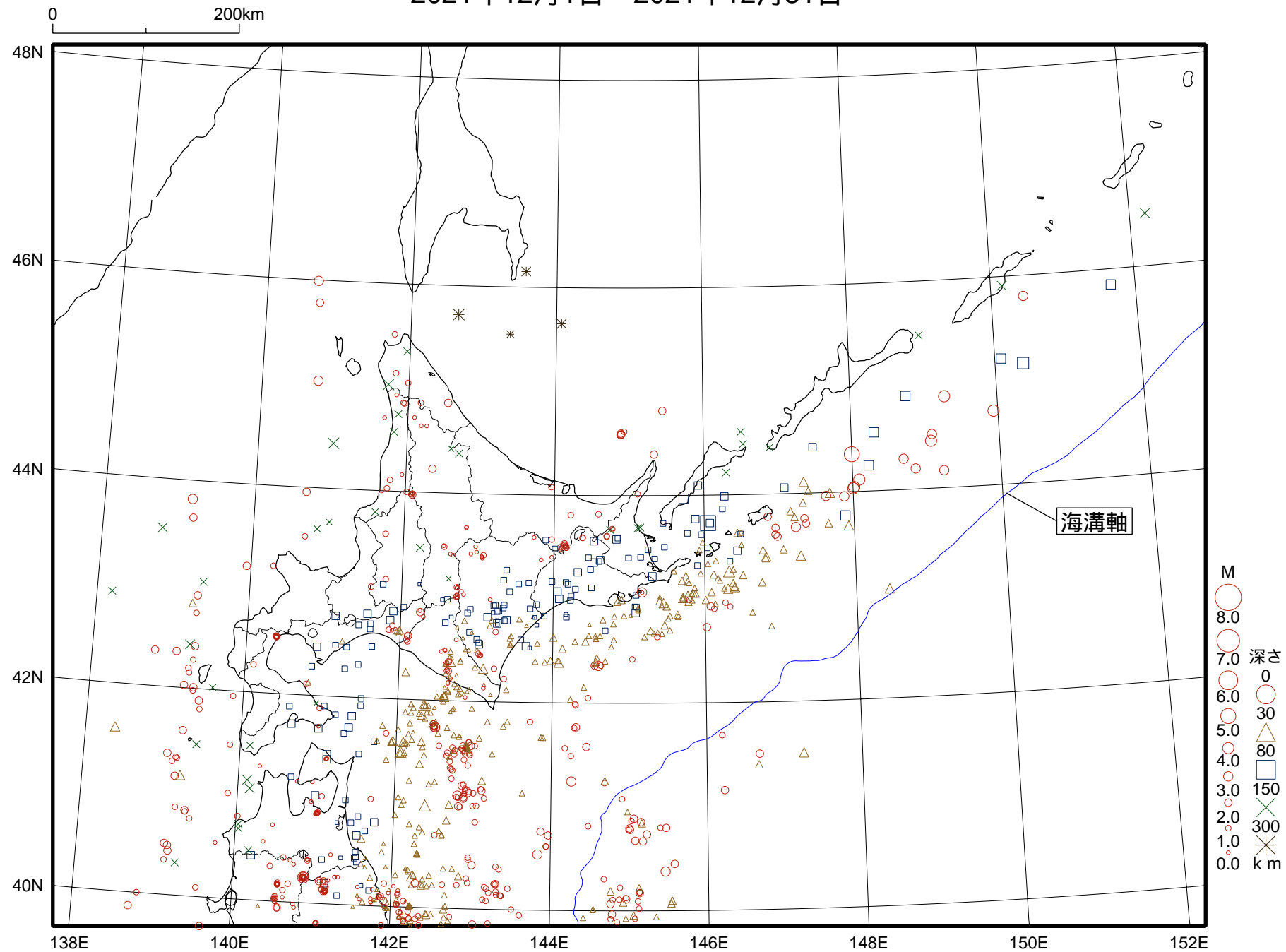
断面図



北海道の地震活動図

2021年12月1日 ~ 2021年12月31日

震央分布図



渡島・檜山地方で震度 1 以上を観測した地震の表 (2021年12月)

年 月 日 地方	時 分 震度	震央地名 震度観測点名	北緯 (N)	東経 (E)	深さ (k m)	規模 (M)
2021年12月 5日 渡島地方	23時14分 震度 1	青森県東方沖 函館市泊町 * (12)	41 ° 33.0 N	142 ° 54.1 E	34 k m	M4.3
2021年12月 6日 渡島地方	23時33分 震度 2 震度 1	青森県東方沖 函館市泊町 * (19) 函館市新浜町 * (12) 函館市日ノ浜町 * (08)	41 ° 29.5 N	142 ° 03.5 E	55 k m	M4.3
2021年12月 8日 渡島地方	05時50分 震度 1	青森県東方沖 函館市泊町 * (14) 函館市新浜町 * (07) 函館市日ノ浜町 * (05)	41 ° 35.6 N	141 ° 57.4 E	59 k m	M3.8
2021年12月21日 渡島地方	01時05分 震度 2 震度 1	日高地方中部 函館市泊町 * (22) 函館市新浜町 * (20) 函館市川汲町 * (15) 函館市尾札部町(09) 函館市美原(09) 七飯町桜町(05) 七飯町本町 * (05) 鹿部町宮浜 * (10) 渡島森町上台町 * (05) 渡島森町砂原 * (12) 木古内町木古内 * (10)	42 ° 23.1 N	142 ° 39.4 E	39 k m	M4.8
2021年12月23日 渡島地方	06時53分 震度 1	青森県東方沖 函館市泊町 * (09) 函館市新浜町 * (05)	40 ° 59.1 N	142 ° 23.6 E	47 k m	M4.0
2021年12月27日 渡島地方	04時40分 震度 1	浦河沖 函館市泊町 * (08) 函館市新浜町 * (10)	41 ° 57.0 N	142 ° 20.6 E	71 k m	M4.2

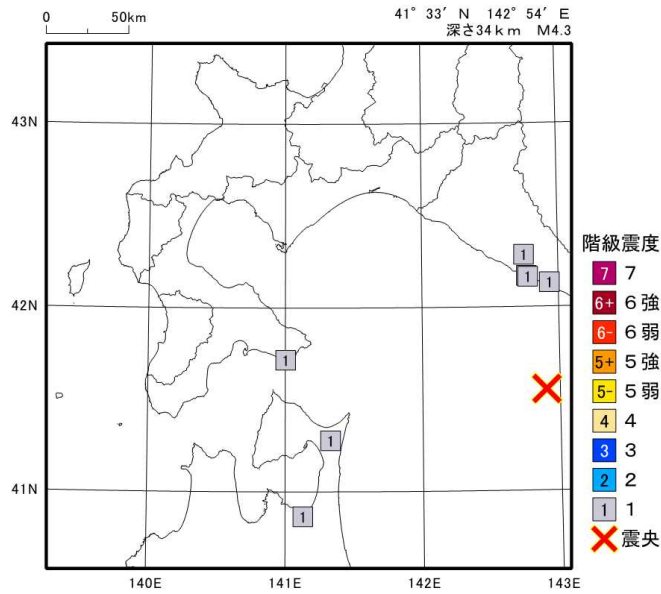
* のついている地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

()内の数値は0.1単位の詳細な震度 (計測震度) の小数点を省略して表しています。

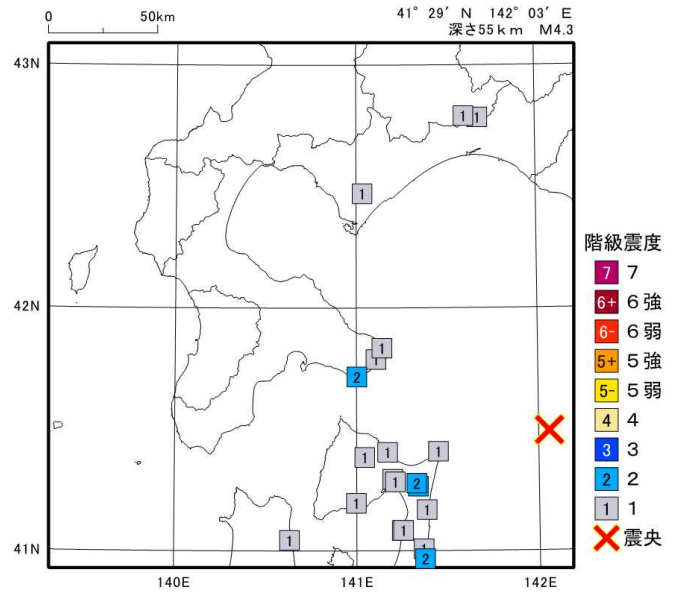
計測震度と震度階級の関係

計測震度	~ 0.4	0.5 ~ 1.4	1.5 ~ 2.4	2.5 ~ 3.4	3.5 ~ 4.4	4.5 ~ 4.9	5.0 ~ 5.4	5.5 ~ 5.9	6.0 ~ 6.4	6.5 ~
震度階級	0	1	2	3	4	5 弱	5 強	6 弱	6 強	7

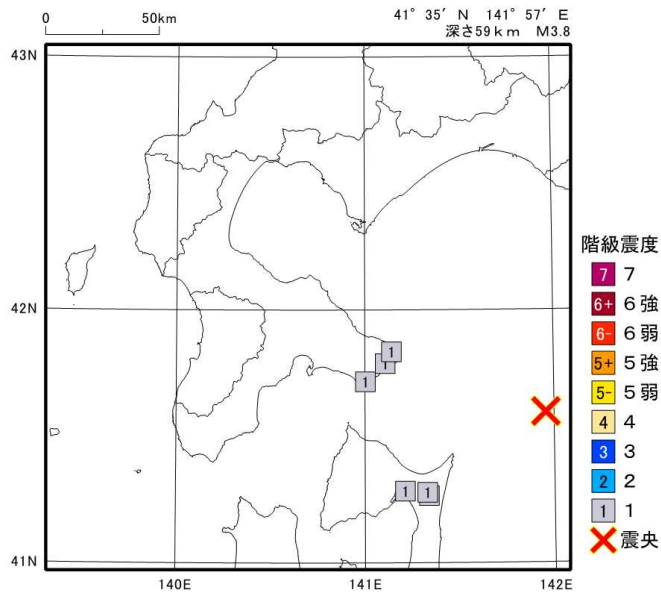
2021年12月5日23時14分 青森県東方沖の地震の震度分布図



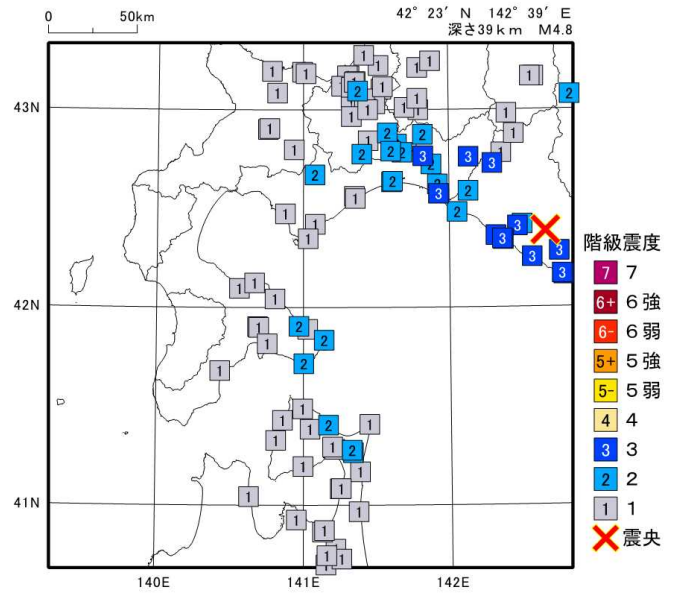
2021年12月6日23時33分 青森県東方沖の地震の震度分布図



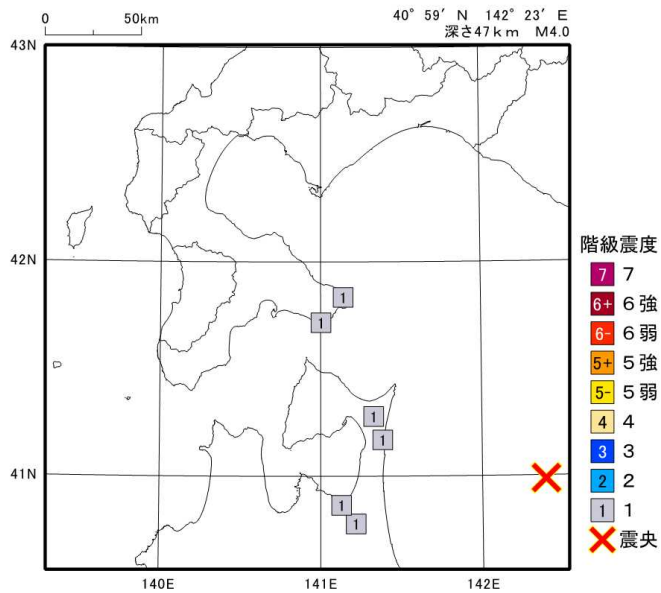
2021年12月8日05時50分 青森県東方沖の地震の震度分布図



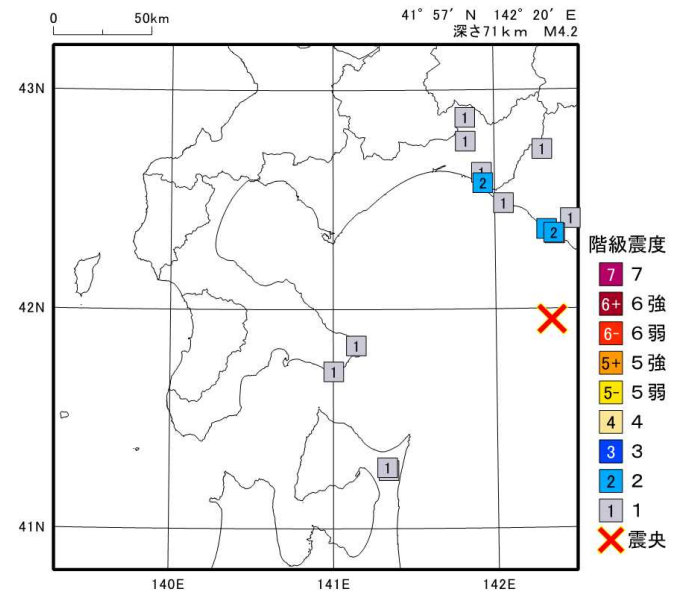
2021年12月21日01時05分 日高地方中部の地震の震度分布図



2021年12月23日06時53分 青森県東方沖の地震の震度分布図



2021年12月27日04時40分 浦河沖の地震の震度分布図



本資料の利用にあたって

- 本資料の震源要素及び震度データは暫定値であり、データは後日変更することがあります。
- 次の期間の地震について、暫定的に震源精査の基準を変更しているため、それ以外の期間と比較して微小な地震の震源決定数の変化が見られることがあります。
2020年9月1日から10月23日まで、2021年1月9日から3月7日まで、2021年4月19日から12月5日まで
- 2020年9月以降の地震は、それ以前と比較して、処理方法の違い等により、震源の見かけ上の位置や震源決定数に変化が見られることがあります。
- 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。
- 図中橙色の線は、地震調査研究推進本部が地震発生可能性の長期的な確率評価を行った主要活断層を表します。
- 過去の地震と比較するため、前3ヶ月（今期間を含まない）の震央を灰色のシンボルで表します。
- 本資料中の地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号平29情使、第798号）。

【防災メモ】

～冬の大地震に備えて～

冬に大きな地震が発生した場合には、強い揺れや津波の被害に加え、雪や寒さが原因となる二次災害が起こることもあります。冬の大地震に備えて、以下の点に注意しましょう。

1. 雪や凍結路に対する備え

屋根に雪が多く積もっていると、地震の揺れによる家屋の倒壊や、屋根からの落雪の可能性がより大きくなります。屋根からの落雪は人を巻き込む危険性があるほか、避難路をふさぐ原因にもなりますので、十分に注意しましょう。

地震・津波から避難する場合、冬は路面の積雪や吹雪などにより時間がかかります。避難所や避難場所までの経路を事前に確認しておきましょう。また路面が凍結していると滑りやすいため、避難の移動中に転倒して負傷する恐れがあります。そのため路面状況をよく確認し、慌てず避難しましょう。



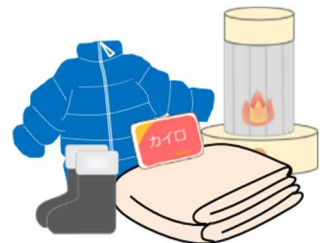
2. 火災に対する備え

暖房器具を使用する冬場の地震では、火災のリスクが高まります。転倒時に自動停止する機能があっても、停電からの復電とともに再起動したり、配線の損傷から漏電したりして出火する通電火災に注意が必要です。暖房器具のそばには可燃物を置かないようにし、避難の際はブレーカーを切るようにしましょう。



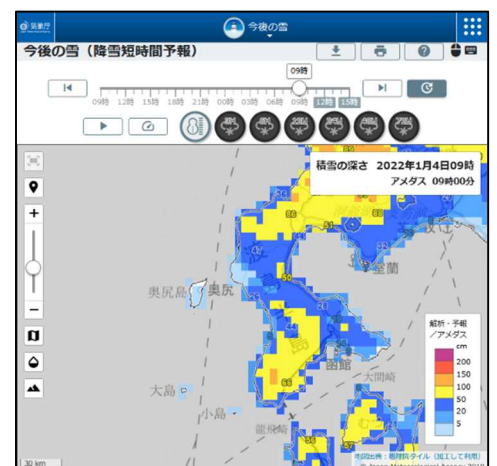
3. 寒さへの備え

地震によって電気やガスが止まり、暖房器具が使えなくなることが考えられますので、このような時でも使用できるようなポータブルの暖房器具を用意しておきましょう。また、屋外で低体温症になるのを防ぐため、防寒着や防寒靴、毛布、カイロなどを避難時にすぐ持ち出せるようにしておくとう安心です。



4. 雪についての情報

気象庁ホームページでは「今後の雪」を提供しています。このコンテンツでは、積雪の深さと降雪量の分布について、24時間前から現在までの状況及び6時間先までの予測を一体的に確認できます。これまでの積雪と今後の雪に関する情報としてご活用ください。



気象庁ホームページ「今後の雪」
(<https://www.jma.go.jp/bosai/snow/>)